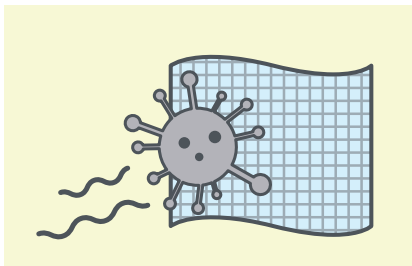
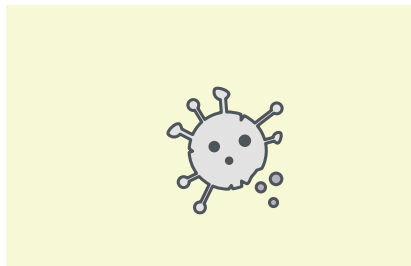


防カビ

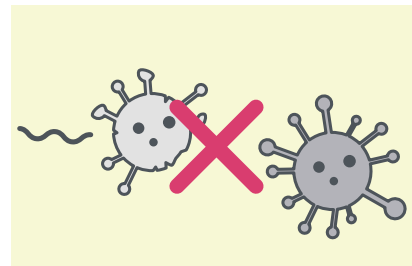
〈カビの生育を抑制するメカニズム（イメージ）〉



空気中の浮遊菌がカーテン上の薬剤に触れると…



菌の最も外側の細胞壁が破壊されて生育できない状態になり、その間、同種菌に対し危険信号を送ります。



危険信号が伝達された同種菌は近寄らなくなりカビの生育が抑制されます。

耐性菌ができにくい薬剤を使用しているため、効果の持続が期待できます。

(忌避効果を兼ね備えたメカニズムによって、耐性菌ができる可能性を低くします。)

■ カビ抵抗性試験

試験菌:住宅環境において検出頻度の高いクロカビ系やアオカビ系の約10種の真菌を使用。

温度:28~30℃ 湿度:85%RH以上 期間:28日間 培地:無機塩寒天培地

写真はカビを28日間培養させた後の様子

防カビ加工品



カビの生育は一部のみ

通常品



生地全体にカビが生育

通常品の場合は、生地全体にカビの生育が見られますが、防カビ加工品の場合は、カビの生育が抑制されているのが分かります。

左記試験は一定の条件下での効果を確認したものです。あらゆる条件下での性能を保証するものではありません。

■ 加工薬剤の安全性

	加工剤の安全性データ	SEK基準(参考)
急性経口毒性試験(LD50)	≥2,000mg/kg	≥2,000mg/kg
皮膚刺激性試験	P.I.I.<2.0	P.I.I.<2.0
皮膚感受性試験	陰性	陰性
変異原性試験(Ames試験)	陰性	陰性

■ 防カビ加工品に関するご注意

カビの生育抑制効果が期待できるのは、生地上に限ります。病気の治療や予防の効果はありません。また、すべてのカビを死滅させるものではありません。高温・多湿、栄養分(汚れ等)がある環境下では、カビが発生する場合があります。試験菌以外のカビでは効果の有無は確認できておりません。